

第93回 簿記実務検定第2級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間 30 分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	受取手形	不渡手形
未着商品	積送品	前払金	未収金
仮払法人税等	未払法人税等	前受金	未払配当金
社債	資本金	資本準備金	利益準備金
別途積立金	繰越利益剰余金	売上	受取利息
社債償還益	仕入	支払利息	創立費
株式交付費	社債償還損	支店	本店
法人税等	損益		

- a. かねて、茨城商店に商品 ¥700,000 を注文し船荷証券を受け取っていたが、本日、商品が到着したので、船荷証券と引き換えに商品を受け取った。なお、引取運賃 ¥19,000 は現金で支払った。
- b. かねて、商品代金として南北商店から裏書譲渡されていた約束手形が不渡りとなり、手形金額 ¥600,000 と償還請求費用 ¥4,000 をあわせて償還請求していたが、本日、請求金額と期日以後の利息 ¥1,000 を現金で受け取った。
- c. 東西商店の本店は、決算の結果、支店が当期純損失 ¥90,000 を計上したとの通知を受けた。
(本店の仕訳)
- d. 高知産業株式会社は、設立にさいし、株式500株を1株につき ¥80,000 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、1株の払込金額のうち ¥40,000 は資本金に計上しないことにした。なお、設立に要した諸費用 ¥530,000 は小切手を振り出して支払った。
- e. 徳島商事株式会社（発行済株式数7,500株）は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は ¥3,000,000 である。
利益準備金 ¥150,000 配当金 1株につき ¥200 別途積立金 ¥1,250,000
- f. 香川商事株式会社は、割引発行した社債 額面総額 ¥50,000,000（帳簿価額 ¥49,600,000）のうち、額面 ¥20,000,000 を額面 ¥100 につき ¥99 で小切手を振り出して買入償還した。
- g. 群馬商事株式会社（決算年/回）は、決算にあたり、当期の法人税・住民税及び事業税の合計額 ¥2,600,000 を計上した。ただし、中間申告のさい ¥1,400,000 を納付しており、仮払法人税等勘定で処理している。

2

栃木商店の1月2日以降の取引は次のとおりであった。よって、

- (1) 特殊仕訳帳としての売上帳およびB品の商品有高帳に記入し、総勘定元帳と売掛金元帳に転記しなさい。
- (2) 28日に売り上げたC品の商品売買益を計算しなさい。なお、C品の前月繰越高は、零(0)である。
ただし、
 - i 総勘定元帳への転記は、特殊仕訳帳から直接おこなうこと。
 - ii 特殊仕訳帳および商品有高帳は、月末に締め切るものとする。
 - iii すでに記入してある取引も転記すること。
 - iv 総勘定元帳と売掛金元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。
 - v ほかに特殊仕訳帳として、現金出納帳・当座預金出納帳・仕入帳を用いている。
 - vi 商品有高帳は、先入先出法により記帳している。

取 引

1月2日 千葉商店に10日に売り渡した商品について、次のとおり返品された。なお、この代金は売掛金から差し引くことにした。

A 品 20個 @ ¥850 ¥ 17,000

17日 東京商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

B 品 500個 @ ¥800 ¥400,000

20日 埼玉商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

B 品 700個 @ ¥510 ¥357,000

C 品 600〃 " " 340 ¥204,000

28日 千葉商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥100,000 は同店振り出しの小切手#7で受け取り、残額は掛けとした。

C 品 400個 @ ¥450 ¥180,000

3

次の各問いに答えなさい。

- (1) 神奈川商店(個人企業 決算年/回 12月31日)における、下記の各勘定の(①)と(②)に入る金額を記入しなさい。

I 車両運搬具および備品Aの取得原価は次のとおりである。

i 車両運搬具 取得原価 ¥2,400,000

ii 備品A 取得原価 ¥ 500,000

II 当期は車両運搬具および備品について、次の取引がおこなわれた。

1月1日 車両運搬具を ¥500,000 で売却し、代金は現金で受け取った。

〃 備品Bを ¥300,000 で買い入れ、代金は小切手を振り出して支払った。

12月31日 決算にあたり、備品Aおよび備品Bの減価償却をおこなった。減価償却費の計算は定率法による。ただし、償却率は20%とする。

車 両 運 搬 具		車両運搬具減価償却累計額	
1/1 前期繰越	2,400,000	1/1 諸 口	2,400,000
備 品		備品減価償却累計額	
1/1 前期繰越	500,000	12/31 次期繰越	()
〃 当座預金	300,000	1/1 前期繰越	100,000
	800,000	12/31 減価償却費	(②)
	800,000		()
固定資産売却 ()			
12/31 損 益	()	1/1 諸 口	(①)

(2) 支店会計が独立している所沢商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の下記の資料によって、次の金額を計算しなさい。

- a. 支店勘定残高と本店勘定残高の一致額 b. 本支店合併後の売掛金

資 料

i /2月30日における元帳勘定残高（一部）

	本 店	支 店
売 掛 金	¥416,000	¥280,000
支 店	855,000 (借方)	—
本 店	—	769,000 (貸方)

ii /2月3/日における本支店間の取引

- ① 本店は、支店の売掛金 ¥213,000 を現金で受け取った。
支店は、その通知を受けた。
- ② 本店は、支店が/2月29日に発送した商品 ¥86,000 (原価) を受け取った。

(3) 千代田商店では5伝票制を採用し、仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法によっている。よって、

- a. /月9日の略式の伝票を集計したさいの仕訳集計表の(ア)と(イ)に入る金額を計算しなさい。ただし、下記の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。
- b. 下記の伝票から、買掛金元帳に転記後の仕入先杉並商店に対する買掛金の残高を計算しなさい。ただし、/月8日の買掛金元帳の杉並商店の残高は ¥410,000 (貸方) であった。

取 引

/月 9日 港商店から商品 ¥180,000 を仕入れ、代金のうち ¥80,000 は小切手#8を振り出して支払い、残額は掛けとした。

入金伝票	
売掛金(文京商店)	320,000
受取手数料	8,000
前受金	120,000
() ()	

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
当座預金	300,000	売掛金(足立商店)	300,000
買掛金(品川商店)	400,000	支払手形	400,000
前受金	140,000	売掛金(足立商店)	140,000
買掛金(杉並商店)	200,000	当座預金	200,000
() ()		() ()	

出金伝票	
未払金	46,000
買掛金(杉並商店)	120,000
支払家賃	70,000
() ()	

売上传票	
足立商店	900,000
大田商店(返品)	28,000
文京商店	740,000
豊島商店	650,000

仕入伝票	
板橋商店	480,000
杉並商店	360,000
渋谷商店(値引)	78,000
() ()	

仕 訳 集 計 表

令和〇年/月9日

借 方	平	勘 定 科 目	平	貸 方
		現 金		
		当 座 預 金		
		売 掛 金		(ア)
		支 払 手 形		
		買 掛 金		
		前 受 金		
		未 払 金		
		売 上		
		受 取 手 数 料		
		仕 入		
		支 払 家 賃		
(イ)				(イ)

(4) 愛媛商店（個人企業）の次の資料によって、期末の現金の金額を計算しなさい。

資 料

i 資産および負債				ii 期間中の追加元入額	¥150,000
		(期首)	(期末)	iii 期間中の引出金	¥90,000
現金	¥430,000		¥ <input type="text"/>	iv 当期純利益	¥210,000
売掛金	620,000		680,000		
商品	270,000		360,000		
買掛金	540,000		480,000		

4 前橋商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 総勘定元帳の損益勘定に必要な記入をおこないなさい。
- (2) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥420,500	当座預金	¥2,564,300	受取手形	¥1,100,000
売掛金	2,610,000	貸倒引当金	15,000	有価証券	1,872,000
繰越商品	1,716,000	備品	2,912,000	備品減価償却累計額	1,456,000
支払手形	1,149,000	買掛金	2,517,800	借入金	400,000
従業員預り金	325,000	資本金	6,800,000	売上	18,159,000
受取手数料	63,000	仕入	14,132,000	給料	2,160,000
支払家賃	834,000	保険料	416,000	消耗品費	43,000
租税公課	47,000	雑費	52,000	支払利息	6,000

付記事項

- ① 得意先西北商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金 ¥10,000 が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥1,873,000
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定額法による。ただし、残存価額は零(0) 耐用年数は8年とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
水戸商事株式会社 800株 時価 /株 ¥2,400
- e. 消耗品未使用高 未使用分 ¥17,000 を消耗品勘定により繰り延べる。
- f. 保険料前払高 保険料のうち ¥252,000 は、本年9月/日からの/年分を支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利息未払高 未払高 ¥3,000 は当期分のため見越し計上する。

第93回 簿記実務検定 2級 **商業簿記** [解答用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

総勘定元帳

現金 1	当座預金 2
1/ 1 前期繰越 236,000	1/ 1 前期繰越 592,000
受取手形 3	売掛金 4
1/ 1 前期繰越 387,000	1/ 1 前期繰越 360,000
売上 19	

売掛金元帳

千葉商店 1	東京商店 2
1/ 1 前月繰越 170,000	1/ 1 前月繰越 80,000

(2)

¥

3

(1)

① ¥	② ¥
-----	-----

(2)

a ¥	b ¥
-----	-----

(3)

a ア ¥	イ ¥
b ¥	

(4)

¥

2	
得点	

3	
得点	

4

(1)

総勘定元帳
損 益

31

12/31 仕 入	12/31 売 上
〃 給 料	〃 受 取 手 数 料
〃 ()	〃 ()
〃 ()	
〃 支 払 家 賃	
〃 保 険 料	
〃 消 耗 品 費	
〃 租 税 公 課	
〃 雑 費	
〃 支 払 利 息	
〃 ()	

(2)

貸借対照表

前橋商店

令和〇年/2月3/日

(単位：円)

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金		支 払 手 形	
当 座 預 金		買 掛 金	
受 取 手 形 ()		借 入 金	
貸 倒 引 当 金 ()		従 業 員 預 り 金	
売 掛 金 ()		()	
貸 倒 引 当 金 ()		資 本 金	
有 価 証 券		()	
商 品			
()			
()			
備 品 ()			
減 価 償 却 累 計 額 ()			

4	
得点	